

令和7年度 学校評価報告書

学校名	三田市立長坂中学校
-----	-----------

1 学校教育目標

夢の実現に向けて、自ら考え、行動する

こころ豊かな生徒の育成

- ・命と人権を大切にし、互いを思いやり尊重し合う生徒の育成
- ・未来への明るい展望を持ち、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を基盤として、自ら考え判断し、行動できる実践力のある生徒の育成

2 今年度の学校重点目標

- ①生徒理解を深め、一人一人の多様な能力や個性を伸ばすため、全教職員が協働し、教育課題に取り組む。
- ②学びの場にふさわしい環境づくりを進め、教育課程及び教育活動の充実を図り、活力に満ちた魅力ある学校づくりに取り組む。
- ③家庭、地域社会と協働し、生徒との心のふれあいを大切にされた地域に信頼される学校づくりに取り組む。

3 総合的な自己評価

探究的な学習を通して、夢や目標に向かう生徒の育成を目指した。生徒主体による学習活動を重ねるごとに生徒間の関係が深まり、安心した学校生活を送ることができる環境が整うことで、「学校が楽しい」と感じる生徒が増加した。

一方で、学校生活に不安を感じている生徒の増加傾向がみられた。SC、SSW、関係機関との連携を強化するなど、組織的な対応の充実を図る。また、地域・家庭と協働し、日常の小さな違和感も見逃さない丁寧な対応を積み重ね、安心・安全な学校づくりを目指す。

「基礎学力の向上」と「家庭学習習慣の定着」は引き続き重点課題として改善を目指す。放課後や長期休業中の自習室開放等、個別に学習内容を振り返ることができる機会を今後も創出する。学習習慣の定着を図るとともに、個別指導を充実させることにより基礎学力の向上を目指す。

4 総合的な学校関係者評価

生徒一人ひとりを大切にされた教育活動を通して、生徒はやりがいを感じ、自己肯定感を育むことができた。生徒理解を重視した指導を積み重ね、教員が生徒の取組みを正しく評価することで、今後も継続して生徒が「自分らしく」生活できる学校環境を整える。

教職員は生徒との信頼関係を堅固にすることで、生徒・保護者が相談しやすい体制を整える。SC、SSW、関係機関と連携した組織的な対応を徹底し、いじめがうまれにくい予防的な取組みの充実を推し進めることで安心・安全な学校をつくる。

引き続き地域・家庭と協働し、家庭学習習慣の定着を図ることが重要である。小中連携により生徒の実態を把握、年度当初に配布する「学習の手引き」を活用することで中1ギャップを減らし、生徒の困り感の払拭を目指す。また、主体的に学びに向かう意欲が更に高められるよう指導の充実と改善に努める。

5 評価結果

自己評価				学校関係者評価
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
学力向上と学習指導	探究的学習や課題解決型学習を通じた「自ら学び、考える力」の育成と、生徒の学習意欲の向上を図る。	主体的に学ぶ意欲の向上に成果。	生徒主体の教育活動の推進。放課後の自主学習や個別学習の継続。	生徒の自己理解を高め、課題解決能力向上を目指した指導の充実。
	学校園所、家庭と連携した学習習慣づくりの推進。	家庭学習習慣の定着に課題。	校区の保幼・小中連携プランの活用・推進。家庭と連携した取組みの強化。	共通重点項目をもとに、地域・家庭と協働し、生徒の学習環境の整備と充実を図る。
生徒指導	「学校いじめ防止基本方針」に基づき、問題行動やいじめなどの早期発見と、迅速かつ組織的な生徒指導の推進。	不登校生徒の出席率の増加に成果。	SC・SSW、関係機関等との連携強化。情報共有・組織的な対応の充実と継続。	家庭と協働し、いじめ・不登校等の早期発見・未然防止の体制を構築。
	生徒の共感的理解に基づいた教育相談の充実とコミュニケーションスキルの向上を図る。	計画的な教育相談日の設定ときめ細やかな指導に成果。	教職員研修の充実と継続した生徒理解を推進。関係機関と緊密な連携。	心を育む教育活動と、生徒が安全・安心に生活できる学校づくりの推進。
開かれた学校づくり	キャリアノートの活用推進と学校園所連携による、学びの連続性を大切にされた安心して学べる学習環境づくり。	生徒理解と中1ギャップの解消に課題。	生徒の実態把握と小中連携の充実を図る。	地域・保護者と連携し、生徒が目標に向けて主体的に取組める生活環境の形成。
	より良い教育環境づくりと多様な教育力の活用の推進。	校内の環境整備と外部人材(講師等)の活用で成果。	オープンスクール等、小中一貫を意識した生徒の学習活動の取組みの推進。	保護者と連携を図り、生徒の地域活動への参加の工夫と充実に期待。
資質向上の取り組み	多様な課題に対し実践的な指導力を身に付け、チームとしての職務遂行能力の育成と課題への対応力向上を図る。	計画的な研修の充実と授業研究の積極的な取組みに成果。	研修の計画・実践・改善・見直しのPDCAサイクルの確立と強化。	指導力向上による「分かる」授業展開の推進と、きめ細やかな個別指導の充実。
	OJTを進め、学び合う良さを実感し学び合う質を高める。	組織全体の生産性向上と活性化に成果。	教職員間の連携強化。若手教員の育成。	働きやすい職場環境の整備。健康で活力ある教職員の育成推進。
安全管理	「心に響く」道徳教育・人権教育の推進と充実。	系統立てた全校道徳の確立に成果。	異学年集団によるグループ活動を通じた道徳心の向上。	人とのつながりを重視した、生徒自ら夢や目標に向かう教育活動の推進。
	危機管理の徹底と迅速・丁寧な組織的な対応の推進。	施設の老朽化に課題。	毎月実施する安全点検の充実と危機管理意識の向上。	地域安全パトロールや見守り活動の強化。